日本風工学会出版賞を受賞して

真木太一*

Taichi MAKI

このたびは、「風の事典」(真木太一・新野 宏・野村卓史・林 陽生・山川修治編, 執筆者 99 名), 丸善出版に対して, 図らずも日本風工学会の出版賞を受賞しましたことは, 大変嬉しく思います。心よりお礼申し上げます。編集委員長として, 委員会, 執筆者, 丸善関係者に代わって御礼方々, 感想を述べさせていただきます。

さて, 出版賞とは, 他の学会にはあまりない希少な素晴らしい賞と感心し, ある意味で高く評価されたものと理解しています。

本書籍「風の事典」が出版されるに当たっての経緯を述べますと, 本書の発行の前に, 「沙漠の事典」がありました。編者は日本沙漠学会, 出版社は同じ丸善出版で, 編集委員長は小島紀徳教授でした。著者は編集企画委員の一人でしたが, たまたま日本沙漠学会会長であったことで, 書籍が完成した時に, 丸善の編集関係者がわざわざ新本を持参して挨拶に来られました。その時に, 次の計画を模索していたようで, 雑談の中で風に関するシンポジウムがあり, すでに 55 年の開催歴があることを話しているうちに, それぞれ, と言うことになり, 次の計画のアイデアが出たように理解しています。沙漠の事典はユニークな書籍であり, 事典との名称が付いているので, 図書館等が購入していただいたことで, 発行前から, 赤字にはならない状況があったと感じていました。このことで, 評価が高く, 次の計画に結びついたかと推測しています。

さて, その風に関するシンポジウムは現在では 17 学会の持ち回りで, 細々と開催していますが, 昨年度は 2012 年 3 月 21 日に日本学術会議で第 57 回を開催しました。

日本農業気象学会と日本沙漠学会が幹事学会として, 著者がお世話しました。実は, 過去 40 年間に 6~7 回も世話係をしています。今回は, たまたま本学会の河井宏充会長より昨年, 急遽, 風のシンポジウム開催を依頼されましたが, 半年遅れの依頼かと思っていましたら, 1 回分飛んでいることが後で分かりました。しかし, 何とか任務を果たすことができ, 2 年先まで幹事学会が決まりしばらくは安泰です。

なお, 本書の構成に当たっては本来, 最初に出すことを考えていた「風の基礎」の章は, 定義・解説が多く, 堅苦しいのではないかとの思慮から, 取っつきやすい「風と生活」の章を最初に移すなど工夫しました。本書の内容は, 風に関する気象・環境, 農学, 工学から災害, エネルギー, 乗り物, スポーツ, 文化, 地形・風土等々広範囲の 13 章, 194 項目およびコラム 22 項目を取り上げています。項目は 1~2 頁に限定し, 高校生にも分かりやすく読み切りにし, 事典として, どこから読んでもよいようにしてあります。ただ, 内容については十分見直したつもりですが, 至らぬ点や, また事例を示す場合など独断と偏見があるかも知れませんが, 今後の課題とさせていただきます。

現在, 幾つかの学会で書評, 新刊紹介など, 相次いで掲載されており, 嬉しい限りであります。

最後に, 本書が多くの方々にも少しでも役立てば, この上もない喜びであります。

* 筑波大学大学院生命環境系 客員教授 (九州大学名誉教授)
Visiting Prof., Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba(Prof. Emeritus of Kyushu University)